

(略解)

課題 1.

$$1. \quad G = \frac{aeg(b+cd)}{1-def}, \quad S_f^G = \frac{1}{1-def} - \frac{aeg(b+cd)}{aeg(b+cd)} = \frac{def}{1-def}$$

$$2. \quad \text{a) } G(0) = 1$$

$$\begin{aligned} \text{b) i) } G(0) - y(t) &= \frac{1.5 + \sqrt{1.5^2 - 1}}{2\sqrt{1.5^2 - 1}} e^{-(1.5 - \sqrt{1.5^2 - 1})\omega_n t} - \frac{1.5 - \sqrt{1.5^2 - 1}}{2\sqrt{1.5^2 - 1}} e^{-(1.5 + \sqrt{1.5^2 - 1})\omega_n t} \\ &= 1.17e^{-0.382\omega_n t} - 0.17e^{-2.618\omega_n t} = 0.02 \end{aligned}$$

$$0.17e^{-2.618\omega_n t} \approx 0 \quad \text{として} \quad t = 2.573/\omega_n$$

$$\text{ii) } G(0) - y(t) = (1 + \omega_n t)e^{-\omega_n t} \approx (1 + \omega_n t)(1 - \omega_n t) = 1 - (\omega_n t)^2 = 0.02$$

$$\therefore t = 0.989/\omega_n$$

$$\text{iii) } G(0) - y(t) = \frac{e^{-0.7\omega_n t}}{0.714} \cos(0.714\omega_n t + \phi) = 0.02$$

$$\cos(\omega_n t + \phi) = 1 \quad \text{として} \quad e^{-0.7\omega_n t} \approx 1 - 0.7\omega_n t = 0.01428 \quad \therefore t = 1.4/\omega_n$$

3. a) 左右の腕の長さに相違, 左右の上皿の状況に相違, 支点の左右の回転に相違など機器に狂いがあった場合, 零位法では系統誤差として現れるが, 置換法ではその誤差は出ない.

b) 合致法の 1 つである. 光波 (波長 λ) により測定対象の上面と下面でそれぞれ干渉させ, 干渉縞数の差の小数部分 ε のみを測定すると, 測定対象の高さ (長さ) は L は $L = (N + \varepsilon)\lambda$; $N = \text{整数}$ で与えられる. ここで, L, N は未知量である. それで, いくつかの波長 ($\lambda_1, \lambda_2, \dots$) でこの測定をすれば, L に対して

$$L = (N_1 + \varepsilon_1)\lambda_1 = (N_2 + \varepsilon_2)\lambda_2 = (N_3 + \varepsilon_3)\lambda_3 = \dots$$

が与えられる. 別の測定で L を測定し, 仮の N_1, N_2, N_3, \dots を求め, 十分な精度になるまでそれらを修正する.

課題 2.

1. $R_1 = \frac{l-x}{l}R$, $R_2 = \frac{x}{l}R$ とおくと, 全抵抗は $R_{all} = R_1 + \frac{R_2 R_0}{R_2 + R_0}$ と与えられる.

したがって,
$$e_x = E - R_1 i = \frac{R_2 R_0}{R_1 (R_2 + R_0) + R_2} E = \frac{x}{l} \frac{1}{1 + \frac{R}{R_0} \frac{x(l-x)}{l^2}} E$$

ここで, $i = E/R_{all}$. $\therefore ? = \frac{1}{1 + \frac{R}{R_0} \frac{x(l-x)}{l^2}}$

2. a) 単位量に対応するものがない.
 b) 熱力学温度であり, ケルビン は水の三重点の 1/273.16 とする.
 c) 可逆カルノーサイクルを用意し, 高温 T で流入熱量 Q , 低温 T_0 で流出熱量 Q_0 を測定する. T_0 が正確に定義されていれば, T は $T = (Q/Q_0)T_0$ で与えられる.

3. 測定量が校正の連鎖を介して計測標準で保証されている.

4. オリフィス前後の圧力差 $p_1 - p_2$ は動圧 $\rho u^2/2$ に比例することにより, 流量は

$$Q = CmA \sqrt{\frac{2(p_1 - p_2)}{\rho}}$$
 で与えられる. ここで, C, m, A は各種係数.

5.

	英語	物理量の性質	情報の性質	具体的物理量
示強変量	intensive	作用程度を示す	位差量	力, 電圧
示容変量	extensive	空間的広がり に比例する	流通量	長さ, 電流

課題 3.

1. (1) (1-1) なるべく小さな感温空間部分に長い抵抗体を存在させたいことと、張力が加わらないようにする.
(1-2) 屈曲をつくると破断する.
(1-3) 電気誘導を防ぐ.
(2) 値が不明のリード線の抵抗の影響を除く.
(3) 略
2. 2.1 ① ガラス, 水銀, アルコールの熱膨張率が一定と限らない.
② P が影響する.
2.2 相変態
2.3 いくつかの定義定点とその間を埋める標準温度計と計算式

3.

$R_2 = R_3 = R_4 = R = 200 \Omega$, $R_1 = R + \Delta R$ を (5.11) に代入

$i = ER\Delta R / C$

$$C = \{3R^2 + 2RR_0 + r(2R + R_0)\}\Delta R + 4R\{R^2 + RR_0 + r(R + R_0)\}$$

$$\therefore \Delta R = \frac{4Ri(R^2 + RR_0 + rR + rR_0)}{ER - i(3R^2 + 2RR_0 + 2rR + rR_0)} = -0.0175(\Omega)$$

$$R_1 = 200 - 0.0175 = 199.9825(\Omega)$$

課題 4.

- (i) 計測器型 → データ型, データ型 → 計測器型
- (ii) 動圧 → 全圧
- (iii) ○
- (iv) 金属 → 半導体
- (v) 速い → 遅い
- (vi) 正 → 逆
- (vii) ○
- (viii) 単位系 → 計測標準, 進んでいる → 進んでいない
- (ix) 示容 → 示強
- (x) 銅-コンスタンタン → タングステン-レニウム